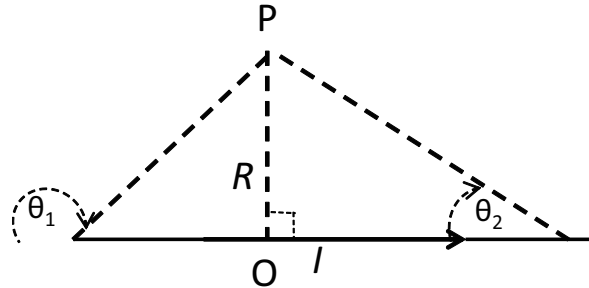


(ビオ・サバルの法則の適用:有限の直線電流のつくる磁場)

filename=biotsavart-direct-finite-current-qa140707B.tex

図のように、有限の長さの直線状の導線に強さ I の電流が流れている。電流 I の



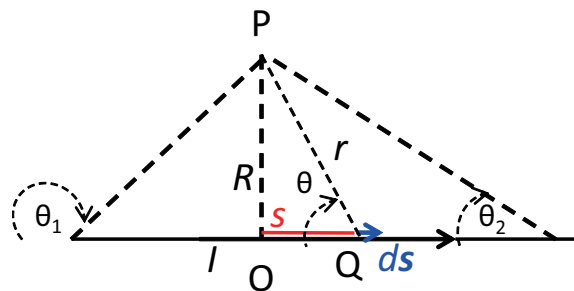
向きから角度 θ_1, θ_2 で眺めるような2点をそれぞれ始点と終点とする直線状の電流から距離 R の点 P における磁場 \mathbf{B} を求めよ。ただし、ビオ・サバルの法則より、原点 O から座標 s だけ離れた線要素ベクトル $d\mathbf{s}$ が点 P に作る微小磁場 $d\mathbf{B}$ は

$$d\mathbf{B} = \left(\frac{\mu_0 I}{4\pi} \right) \frac{d\mathbf{s} \times \mathbf{r}}{r^3} \quad (1)$$

である。この微小磁場 $d\mathbf{B}$ の向きは $d\mathbf{s}$ から位置ベクトル \mathbf{r} の向きに右ねじを回したときに右ねじの進む向きである。ここで、真空の透磁率を μ_0 する。

(解答例)

図のように、導線から距離 R の点 P から電流に垂線を下ろした交点を(積分の)原点 O とする。まず、原点 O から座標 s だけ離れた線要素ベクトル $d\mathbf{s}$ が点 P に作



る微小磁場 $d\mathbf{B}$ はの大きさ dB は

$$dB = \left(\frac{\mu_0 I}{4\pi} \right) \frac{ds \sin(\pi - \theta)}{r^2} = \left(\frac{\mu_0 I}{4\pi} \right) \frac{\sin \theta}{r^2} ds \quad (2)$$

と書ける。図より

$$\begin{aligned} \frac{R}{r} &= \cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = \sin \theta \\ \rightarrow \frac{\sin \theta}{r^2} ds &= \frac{\sin^3 \theta}{R^2} ds. \end{aligned} \quad (3)$$

さらに, $R = s \tan \theta$, $s = R \cos \theta / \sin \theta$ であることを用いて, 積分変数を s から θ へ変換する.

$$\begin{aligned} ds &\equiv \left(\frac{ds}{d\theta} \right) d\theta = R \frac{d}{d\theta} \left(\frac{\cos \theta}{\sin \theta} \right) d\theta = R \frac{-\sin \theta \sin \theta - \cos \theta \cos \theta}{\sin^2 \theta} d\theta \\ &= -\frac{R}{\sin^2 \theta} d\theta \end{aligned} \quad (4)$$

$$\rightarrow \frac{\sin \theta}{r^2} ds = -\frac{\sin \theta}{R} d\theta, \quad (5)$$

$$\theta_1 \leq \theta \leq \theta_2. \quad (6)$$

よって, 以上の結果を用いて積分を実行すると

$$\begin{aligned} B(R) &= \int dB \\ &= \left(\frac{\mu_0 I}{4\pi R} \right) \int_{\theta_1}^{\theta_2} (-1) \sin \theta d\theta = \left(\frac{\mu_0 I}{4\pi R} \right) [\cos \theta]_{\theta_1}^{\theta_2} \\ \rightarrow B(R) &= \left(\frac{\mu_0}{4\pi} \right) \frac{I}{R} (\cos \theta_2 - \cos \theta_1) \end{aligned} \quad (7)$$

となる. 磁場 \mathbf{B} の向きは, 今の図の場合, 紙面の裏から表の向きである.

備考: $\theta_1 = \pi$, $\theta_2 = 0$ の場合, 無限に長い直線状の電流に相当し, その結果は $B(r) = (\mu_0 I / 2\pi R)$ となり, 最初から無限に長いとして計算した結果に一致する.